

恵庭小学校における生成 AI の活用について（参考資料）

本校では、恵庭市教育委員会のガイドラインに基づき、児童の「学びを広げ、深めるための道具」として生成 AI（Gemini）の文章生成機能を活用します。保護者の皆様に安心していただけるよう、活用の詳細についてご説明いたします。

1. 生成 AI とは

こちらが入力した質問や指示に応じて、コンピュータが人間のように対話したり、新しいコンテンツを作成したりする技術です。本校では主に以下の機能を選択的に活用します。

- 文章の作成・推敲： 下書きへのアドバイスや、分かりやすい表現への書き換え。
- 要約： 長い文章のポイントを短くまとめる。
- アイデア出し： 企画やスローガンの案をたくさん出してもらう。
- 情報の整理： 複雑な情報を表にまとめたり、分類したりする。

2. 学校で想定している活用例

教科・学習場面	活用のイメージ
国語（作文や感想文）	<ul style="list-style-type: none">・ 題材の例を考える・ 書き出しのヒントを得る・ 自分の考えを整理する
算数（問題作りや解き方の整理）	<ul style="list-style-type: none">・ 児童自身が問題を考える活動に活用する・ 計算問題や文章問題を作成する・ 学習内容に応じた練習問題を増やす・ 解き方の説明や考え方を整理する
社会、理科、総合（調べ学習）	<ul style="list-style-type: none">・ 難しい資料やニュース記事などをわかりやすく解説する・ 要点を整理する・ 考えた文章を校正する・ 調べた情報を複数の資料と比べながら、の真偽や過不足を確認する
特別活動、学級活動、係活動、児童会	<ul style="list-style-type: none">・ 話し合い活動の意見を整理する・ アンケート結果を分類整理する・ 委員会行事の企画のアイデアを考える・ 係の活動内容の相談をする・ ポスターや呼びかけ文の案を考える

3. 学校として大切にすること

本校では、生成 AI を「答えをそのまま得る道具」ではなく、「学びを助ける道具」として活用します。特に以下の点を重視します。

① 自分で考える力を大切にする

AI の回答は、そのまま使うのではなく、「自分で考える」「比較する」「確かめる」学習を行います。

② 情報を正しく判断（ファクトチェック）する力を育てる

生成 AI は誤った情報を出力する場合があります。そのため、「本当に正しい情報か」「信頼できる内容か」を確認する指導を行います。

③ 対話を通じた思考の深化を図る

単に答えを聞くのではなく、「なぜそうなるの?」「もっと別の言い方はある?」と AI と対話（AI への質問や指示の工夫）を重ねることで、論理的思考力を養います。

④ 個人情報を入力しない

児童が利用する際は、氏名、住所、写真、成績などの個人情報は入力しません。学校において安全面に配慮して運用します。

4. 利用にあたっての配慮事項

- 利用する場面や内容は、教員の指導のもとで行います。
- 活用の目的を明確にし、自力で取り組むべき場面では使用させません。
- 児童の発達段階に応じて活用内容を調整します。また、学習内容や目的に応じて活用し、すべての授業で常時利用するものではありません。
- 必要に応じて利用時間や利用範囲を制限します。
- 学校用アカウントは、入力した内容が AI の学習に利用されない設定（オプトアウト）を適用されています。
- 恵庭市教育委員会の最新ガイドラインを参考に運用します。

5. 保護者の皆様へ

生成 AI は、今後社会のさまざまな場面で当たり前のように活用されることが予想されています。学校では、児童が安全に活用しながら、「情報を適切に扱う力」「自分で考える力」「ICT 活用能力」をバランスよく育成できるよう指導してまいります。

恵庭市のガイドラインは「学校内外」での適切な利用を視野に入れていますが、生成 AI は家庭学習や日常生活でも便利な道具となり得ますが、一方で個人情報の流出や依存などのリスクも伴います。そのため、ご家庭で利用される際も、学校と同様に「個人情報を入力しない」「AI の回答をそのまま写さない」といったルールについて、お子様と話し合っただけであれば幸いです。

※家庭での利用を学校から求めるものではありません

新しい技術を正しく、賢く使いこなす力を育むため、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

6. 参考資料

- ・文部科学省「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン（ver. 2.0）」
- ・北海道教育委員会「道立学校における生成 AI 利活用ガイドブック」
- ・恵庭市教育委員会「恵庭市立小中学校 生成 AI の利活用に関するガイドライン」